新・新潟市教育ビジョン策定推進本部　第３回本部会議　会議概要

【開催概要】

日　時　令和６年３月 26 日（火）午前９時 30 分から午前 11 時

会　場　ふるまち庁舎４階　401 会議室（教育会議室１）

出席者　本部長・副本部長・本部員　ほか

【会議概要】

■１　開会

本部長あいさつ（井崎教育長）

○　コロナ禍を経て、GIGA スクール構想の推進や新学習指導要領の実施、第４次教育振興基本計画の策定など、社会環境が大きく変化をしている。

○　現在の新潟市教育ビジョンは平成 18 年に策定したもので、学びもこうした社会環境の変化に合わせて大きく変革をしなければいけないという認識のもと、新たに教育ビジョンを策定することになった。

○　これからの子ども達が生きていく時代は、正解のない、予測不可能な時代であり、その中でウェルビーイングの実現を目指していかなければならないと言われている。是非、それに１歩でも近づく、理想の教育に近づくような教育ビジョンにしていただきたい。

○　OECD、経済協力開発機構がまとめた調査報告によると、子どもには３つの力が必要だと言われている。１つ目は新たな価値を創造する力、２つ目が対立やジレンマを克服する力、３つ目が責任ある行動をとる力。この OECD の調査結果は、今後新しい教育ビジョンを策定していく上でも非常に示唆に富むものだと考えている。

○　国では、個別最適で協働的な主体的・対話的で深い学びと言っているが、その学びを通してこの３つの力が子ども達、あるいは新潟市民に培われるよう、今後の教育の方向性を決めていく大事な会議と位置づけている。

○　急激な社会変化の中で、自分の人生を切り開くたくましさをもった人や地域や社会を創造できる人を育成するそんな教育ビジョンにしていきたい。

○　本日はこれまでの策定推進本部やプロジェクトチームで検討されてきた内容を踏まえて基本構想、基本計画の修正案の検討になる。新しい教育ビジョンのコンセプトの１つに、「生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身共に豊かな教育」を掲げている。

○　市長部局、教育委員会、皆さんから、学校教育、社会教育をはじめ、多面的に多角的にご議論いただければと思っている。

■２　説明・協議

（１）説明

○　市民アンケートの結果について

・資料１～３について事務局から説明

○　策定プロジェクトチームの協議状況について

・資料４、５について事務局から説明

○　修正案の提案について

・資料６、７について事務局から説明

（学校人事課長）

意見シートの中で、「４つの基本目標のうち３つは人づくり、１つが教育環境づくりとなっているので違和感がある」と書かせていただいたが、今回修正したものは、基本方針として「人づくり」を３つにまとめ、それを土台として支えるものとして「環境づくり」について書かれているので、この整理の方が分かりやすいと思う。令和６年度から始める「第４次多忙化解消行動計画」について、３つの指標は現計画の継続だが、４つ目としてウェルビーイングを謳っている。３つの指標があって、それを支える土台としてのウェルビーイングということで、同じような構造になっている。構造としてもその方がわかりやすく、理解が得られるのではないかと思った。修正案にも反映していただきありがたく思っている。

（学校支援課長）

先ほど事務局からの説明にもあったが、12ページに４つの基本方針がどの基本施策に関連しているかが書かれている。各課の連携、横のつながりが非常に大切だと思っているので、この表が出ることで、施策的な繋がりが見えてくる。今後、他課との連携をどのようにしていくか考えていく上で重要だと思う。

もう１点、この後の協議に関わってくるかもしれないが、人間像の「しなやかに　世界と未来を　創る人」について、「しなやか」という言葉に違和感を覚えていたのが、６ページのような説明が入るとイメージしやすくなる。ただ、これがポンチ絵の中には明確に示されていないので、その辺りがもう少し反映されると良いと思う。一方で、あまり字が多くなることで、余計分かりにくくなってしまうこともあるので、見せ方、伝え方を考えなければいけないと思った。

（事務局）

今ほどの意見にもあったように、ただ言葉を並べているだけでは４つの基本方針の構

成や基本方針と基本政策の関係性が分からないということがあった。ビジュアル的にも位置づけや関係性がわかるようにする必要があるということで、今回の修正案となった。

また、「しなやか」の意味については、今ほど話があったように、ポンチ絵の中では表現できない部分もあるかもしれないが、今後作成する本冊や概要版の中でしっかり伝えていく必要があると思っている。色分けについては、様々な方がいらっしゃるので、今後どういった表現の仕方がいいか考えていきたいと思っている。

（地域教育推進課長）

今ほどの話にもあったが、私も「しなやかさ」というのは、いろんな捉えがあると思っていたので、今回６ページに記載されていたのを見て、こういった説明があれば分かりやすいと思った。

もう１点は、「世界と未来を」のところの表現で、「世界を」と謳っているが、実際アンケートを見たり子ども達の自由記述を見たりした時に、身近な社会がかなり色濃く出ているので、そことの整合性を表現できると多くの方に伝わると思う。

（２）協議（資料に基づき事務局より説明）

○　新潟市の教育が目指す人間像について

（副本部長）

資料６を拝見していると、文化政策課さんが非常に良い意見を出している。人間像の「しなやかに　世界と未来を　作る人」の「世界」のところで引っかかっている。ここで言う「世界」は、グローバルいったワールドの「世界」と言うよりは個人が所有する「世界観」に近いような部分ではないかという。

（事務局）

文化政策課さんからは「世界」の捉え方について、より明示的にした法がいいのではないかということで、「思考や感性を育み　未来を創る人」という代替案を出していただいた。事務局としては、できれば具体の言葉を使うことなく、人間像の中で表現していきたいと考えている。文化政策課さんの表現を否定するわけではなく、こういった表現の仕方もあると思うが、未来も含めて世界というところを、極力漠然とした形の表現の方があえていいと考え、今の形のままとさせていただいた

文化政策課さんの方からは、アンケート結果の見方についても意見をいただいている。資料２の「９．自然体験や文化・芸術に触れる機会の充実」と「11．地域学習や伝統文化の体験学習の充実」について、項目・分野としては同じような分野にも関わらず、９は肯定的な意見が比較的多いが、11は９に比べると少ない。この結果をどのように捉えるか。文化政策課さんからは、９のような「自然体験・文化芸術に触れる機会」

は充実しているが、11の「学習」の部分が不足しているのではないか、という印象を市民の方はもっているのではないかという見方をしていただいた。この「自然体験・文化芸術に触れる機会」が充実されているのであれば、今後はそれをどのようにして上手く「学び」につなげていくかということが大事になってくる。このようにアンケート結果からは様々な捉え方ができる。教育委員会、市長部局それぞれの目線で、より多角的に見ていくことが大事だと思う。

○　基本方針について

（中央図書館館長）

先ほどの説明の中で、コンセプトの１つに、「誰一人取り残さない一人ひとりのニーズに対応した教育」という話があり、基本施策６でも「誰一人取り残さない一人ひとりのニーズに対応した教育の推進」がある。それに関連するのが、基本方針Ⅱとなっているが、基本方針Ⅱを読む限り、「誰一人取り残さない」という思いがなかなか伝わりにくい。この思いが読み取れるものが必要なのではないかと思う。

（特別支援教育課長）

今ほどの意見と同様に考える。「一人ひとりのニーズに対応する」というのが、特別支援教育に関わる部分である。９ページの基本方針Ⅱに「お互いを尊重し、認め合い、活かし合う社会的包摂」というような文言にもあるように、特別支援教育に関わる部分がもっと伝わるとよい。

（教育相談センター所長）

学校現場においても、「こども像」というものを学校に掲げて教育をしている。その中で、そうした「こども像」からこぼれてしまったり、一斉の指導にのらなかったりするこども達がいることが現状。話を戻すようで申し訳ないが、人間像の中に「共に」という言葉を入れるということは、検討されなかったのかなと。

アンケートの結果を見ても、特別支援や不登校などに苦しんでいる方達に対し、学校現場も行政も手が行き届いていないと感じている方が多いと感じた。いわゆる「強者の理論」や「個の力」と言われる中で、点になっている人達の社会がある。その中で「共に」とか「一人ひとりが」という強いメッセージが、前回の案からは感じ取れなかった部分があった。今ほどの皆さんの意見を踏まえて、様々な事情をもった人達にも手を差し伸べるといことをもう一度考えなければいけないと感じた。

（生涯学習センター所長）

社会教育委員会議では、「すべての人が共に集える、学べる、つながれる、社会的包摂の実現した教育」を本市に望んでいる、という提言をいただいている。社会教育委員

からいただいた提言はやはり教育ビジョンの中に、きちんといかしていくべきだということで意見を書かせていただいた。なかなかこの基本方針からは読み取れないというか…志は高くなくても、志は持つべきだと思っている。それぞれの方々のレベルや状況に合わせて、どういった学びを見出していけるのか。なかなかよい表現が見当たらないが、もう少しそういったところが見えてくるといいと思う。

（中央公民館館長）

意見シートにも書かせていただいたが、少子高齢化が進んでいる中で、新潟市に戻る理由、新潟市に住む理由、新潟市で働く理由、新潟市で学ぶ理由など、それらの理由が、新潟市の良さ、魅力、ここだからこその価値観やメリットあることを市民が感じることができれば、必然として「新潟市を選ぶ」「新潟市で暮らす」につながるということはまさにその通りであると思う。その地域の総がかりで子どもを育てていくという意識醸成の必要性というのは、公民館の施策の１つとして「人づくり」「地域づくり」を通したコミュニティの活動の活性化を支援するという観点がある。そういったことからもこういったこの目標の中にもある部分についてもその通りだと思う。

（地域教育推進課長）

基本方針Ⅲの１つ目の丸について、「地域課題の解決に資する実践的な学び」という辺りが若干の違和感がある。２つ目の丸には「このような学びを通じて郷土に誇りと愛着」とあるので、文脈的には１つ目丸は、例えば「地域の人、もの、こと」に関するといった、広い観点で述べたほうが良いのではないかなと思っている。もちろんその中に、地域課題の解決に資する学びというものもたくさんあると思うのですが。ちょっとこの課題解決というものが前面に出過ぎているのではないかと感じる。

（総合教育センター所長）

まず、「手」のイラストについて、非常に私はいいなと思っていて、この「手」があることによって、基本施策Ⅳの「多様な学びを支える教育環境の整備・充実」の部分が強調されたと思う。予測困難な未来に立ち向かう子どもを育てるにあたっては、その必要な資質、能力を身につけさせるために教員の資質、能力の向上もはからなければならないと思っており、職員研修の充実をはかっている。

ICT や PBL、個別最適、協働的など、様々な現代的な教育課題に対応するものが出てきており、そういったものに対応する研修を提供するようにしている。また、子ども達に主体的で対話的で深い学びを提供するために、教員の学び方や研修も変えていかなければならない。これまでの講義一辺倒、伝える一方通行だけのものではいけないと思っている。

アンケートを見させてもらって、こういった研修プログラムの充実について、教員は

どう見ていて、どう考えているのか心配だったが、９割の方が肯定的な回答をしてくれている。ただ、教員の研修について、取組は進んでいるが、その成果についての手応えを感じていないという人がまだまだ多くいることが分かった。保護者や市民については、わからないという人が多かった。更に市民への周知を図る必要があり、「多様な学びを支える教育環境づくり」はやはり大事だと思った。

先ほど申し上げたように、これまで教員の役割は知識を授けることが主であった。これからは伴走者であったり、良きアドバイザーであったり、ガイドであったりというような役割になってくる。今、こども達にはタブレットが配布されており、知識はタブレットやスマホの中にある。人の頭の中に入るよりはるかに多い情報量をもっている。更に教員よりも ICT のスキルはある。そういうこども達に、今後は学校が、先生が、地域が、どういうことをしてあげられるかなというのを考えていかなければならない。そこが「手」の下の部分、支える部分になると思っている。

（施設課長）

施設課としても、ハード面で、学校の老朽化対策が喫緊の課題だと思っている。老朽化対策だけではなく、社会環境の変化もあり、今では当たり前になっているトイレの洋式やエアコンの整備といったものが、まだまだ学校では少し遅れている。

また、教育委員会内で横のつながりが非常に大事だと思っている。特別支援教育課さんが進めているインクルーシブ教育の推進や、学校支援課さんの適応指導教室など、まだまだ施設的には整っていないのかなと。これからもエレベーターの整備やバリアフリー化など教育環境の整備充実をしっかり進めていかなければならないと思っている。

（特別支援課課長補佐）

アンケート結果を見ると特別支援教育は課題が多いと感じている。基本方針Ⅳで特別支援教育の推進を掲げているが、今、施設課さんからも話があったようなことを連携しながら推進していくということで、一番下にある土台の部分に特別支援教育があるのは妥当と考える。

（生涯学習センター所長）

基本方針Ⅳで「学び」と記載があるのは、学校教育に関してなのか、それとも、広く社会教育、他の教育も含めた学びも含まれているのか。それが読み取れなかった。それによって、この図式が若干変わるのかなと思っているのですが。これはいかがでしょうか。

（事務局）

基本的には学校教育だけではない全ての学びになる。「生涯を通した学び」と置き換

えた時に、違和感があれば、ご意見をいただければと思う。これまでのビジョンの作りがどうしても学校教育的視点が強かった部分もあった。今回の基本方針Ⅳの「学び」を、「生涯を通した学び」とした時に、全体の学びを通した教育環境の整備と理解してもらえるような表現にしてもらう必要はある。この辺りについてはご意見いただければと思う。

（こども政策課長）
最後の基本方針Ⅳ、全ての基本方針の土台になるところについて、今ほど、この「学び」には生涯を通した学びと説明があった。学ぶ側のこどもの目線というか、こどもを主体と考えた時の「教育環境の整備」について、「学習環境」の視点はなくていいのかなと思った。一方で、基本施策 12～14 を見ると、教員の資質向上やハード面での整備、DX の部分など、そういった環境であれば、教育環境でいいのかなと。その辺りがどちらかなと思った。

（副本部長）
「学びを支える教育環境」だから、むしろいらないのかもしれない。

（国際課長）
我々からお願いしたかったのは、多文化共生の部分。やはりこの視点というのは、新しい教育ビジョンにも是非盛り込んでいっていただきたいと思う。外国籍市民や外国にルーツを持つ方が国内でもかなり急増していて、右肩上がりとなっている。さまざまな資格で入国された方とその家族のケア、ライフサイクル全てを包括してのケアというところを是非やっていただきたいという意味で、今回意見を書かせていただいた。

（事務局）
先ほどお話した基本方針Ⅳの学びについて、生涯を通した学びかどうかだが、今後、実施計画などで具体的に目指した時に、生涯を通した学びを支える教育環境の整備を、具体的にどのように考えていくかをイメージしなければならないと思う。これまでは見えにくかった部分だったと思うので、予算の話ではないと思うが、その辺りの意識も変えていかなければならないと思った。ここで補足させていただく。

（本部長）
私がまとめるわけでは決してないが、一個人の意見として聞いていただければと思う。例えば、先ほど話に出ていた生涯学習の学びの場は、公民館や図書館といった「空間」として考えていると思うが、将来的には、VR や AR を使って自宅にいながら学べる環境も整っていくと思う。施設や場所といった空間が必要だと思っていても、今後不要

になるかもしれない。そういった時代が、おそらく、先端技術から言えば、もう目の前に一般化されつつある。今議論している新しい教育ビジョンが、あと数年、少なくとも今後 10 年使っていくビジョンとした時に、既存の概念に拘って策定してしまうと、またすぐにビジョンを変えなければならなくなるのではないかとお聞きしていた。

この教育ビジョンは、こども達や保護者、教育関係者を入れるとおそらく 15 万人とか、20 万人近くの方に影響を与える計画になる。今ここいる皆さんが、普段業務で関わりのある方、あるいは知り合いの方々の様々な声を聞いて、「こういったことを書いた方がいいのではないか」というのを、この会議に持ち寄っていただきたい。というのは、先ほど申し上げたように、我々も気付かないことがある。「世界と未来を創る人」というふうに、もし決めるのであれば、創る人は我々ではなくて、これから時代を担う人達である。そういった方々が本当に何を求めているかを感じ取りながら考えていってほしいと、聞いていて思った。

資料７の４ページに、強みと課題とコンセプトと人間像と基本方針と基本施策があるが、これらの関係性がどこから始まって、どういう思考回路で人間像までたどりつくのか、この並びだと分かりにくい。例えば、緑色の矢印がでているところを見ると課題解決のためにコンセプトがあるように見えるが、課題解決のためにやらなければいけないのは施策や事業であるようにも感じる。そういったところの関連が、見てわかるように、工夫があるといいと思う。

もう１点、「世界と未来」のところで、事務局から説明をしていただいたが、「世界」というのは、先ほど言ったように我々が頭の中では空間として認識をしているが、実は空間ではない世界もあるかもしれない。また、「未来」というのも、時間軸のようで時間軸ではない未来もあるかもしれない。こういったことは、我々が思っている、ここで表現している世界と未来とはこういうことだと伝わるような仕掛けをしなければならない。今後、市議会や外部へ説明していく際に、きちんと伝わるような表現である必要がある。皆さんで知恵を出して、説明を加えるなり、わかりやすい絵にするなりというところがあってもいいのかなと思う。本部長として決めているわけではなくて、これから検討の材料として、考えていただければと思う。

○　その他

（事務局）

長時間にわたりご協議いただき、皆さまから活発なご意見をいただけたこと、本当にありがたく思っている。本日いただいたご意見を踏まえて、策定を進めていきたい。

連絡事項を３点。１点目、本日協議なかったが、基本施策に関しても皆さまからご意見をいただきたいと思う。本日の会議でご協議いただいた「新潟市の教育が目指す人間像や基本方針」と併せて、基本施策についても、意見があれば、この後に送付するメールでの依頼に対して記入の上、返送をいただきたい。期日は短くて申し訳ないが、３月

29 日とさせていただきたい

２点目。本日の会議録について、後日、皆さまにお配りしたい。ご自身の発言を中心に確認をお願いしたい。

最後に３つ目。前の画面を見ていただきたい。前回示した策定のスケジュールについて、第４回策定推進本部会議は５月に予定が入っているが、できれば４月下旬に行いたいと考えている。ただ、本日意見をいただいたので、それを基にプロジェクトチーム等で検討する必要があるのか、そういったことも踏まえて策定推進本部の会議の日程を考えさせていただきたい。次回の会議等の開催の日時や内容については、後日、改めてメールで事務局より連絡をさせていただきたいと思う。

■３　閉会

副本部長あいさつ（本間教育次長）

○　本日第３回の策定推進本部ということで、第２回が書面開催だった。書面開催で出していただいた意見を見ると、議論していく場も大変必要なことであり、そこで深まっていく部分もあるかと思う。一方で、書面開催でもじっくり互いに向き合っていただいて、非常に精査した、活字にした意見をいただくことも、貴重だと感じた。

○　時間がない中で恐縮ではあるが、本日の議論を踏まえ、様々な意見もいただきながら、令和６年度いっぱいをかけて、新しい教育ビジョンを策定していきたいと考えている。

○　冒頭、教育長からも多面的で多角的なご意見をいただきたいという話があった。教育委員会１つの課で解決できる課題は、少なく、教育委員会だけでも複数の課、または市長部局の各課と協力して課題解決をしていくという場面が増えている。新しいビジョンの策定についても同様と思うので、今後ますますのご協力をお願いして、私のあいさつとさせていただきたい。